

第10期定時株主総会 招 集 ご 通 知

日 時 2019年6月26日（水曜日）
午前10時 開会
（午前9時 受付開始）

場 所 東京都千代田区神田須田町一丁目25番
J R 神田万世橋ビル4階 ステーションコンファレンス万世橋

決議事項

- 第1号議案 剰余金処分の件
第2号議案 取締役6名選任の件

目 次

招集ご通知

第10期定時株主総会招集ご通知	2
-----------------------	---

招集通知添付書類

事業報告

I. 企業集団の現況に関する事項	3
------------------------	---

II. 会社の現況	11
-----------------	----

連結計算書類	22
--------------	----

計算書類	30
------------	----

監査報告	37
------------	----

株主総会参考書類

第1号議案 剰余金処分の件	41
---------------------	----

第2号議案 取締役6名選任の件	42
-----------------------	----

(証券コード 1938)

2019 年 6 月 4 日

株 主 各 位

東京都千代田区神田錦町一丁目 6 番地

日本リーテック株式会社

代表取締役社長 田 邊 昭 治

第10期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第10期定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2019年6月25日（火曜日）午後6時までに到着するようご返送いただきたくお願い申し上げます。

敬 具

- 記
1. 日 時 2019年6月26日（水曜日）午前10時
（受付開始時刻は、午前9時となります。）
2. 場 所 東京都千代田区神田須田町一丁目25番
J R 神田万世橋ビル 4 階 ステーションコンファレンス万世橋
（末尾の会場ご案内図をご参照ください。）
3. 目的事項
報告事項 1. 第10期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第10期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）計算書類報告の件
- 決議事項
第1号議案 剰余金処分の件
第2号議案 取締役6名選任の件

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。また、資源節約のため、この「招集ご通知」をお持ちくださいますようお願い申し上げます。

なお、株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス <http://www.j-rietec.co.jp>）に掲載させていただきます。

## (添付書類)

# 事業報告

(2018年4月1日から  
2019年3月31日まで)

## I. 企業集団の現況に関する事項

### 1. 当連結会計年度の事業の状況

#### (1) 事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、相次ぐ自然災害により上半期の成長率に弱含みが見られましたが、一部で減速傾向がありながらも海外経済の安定的な推移に加えて、企業業績や雇用環境の改善を背景に緩やかな回復基調となりました。

建設業界におきましては、オリンピック関連投資や国土強靱化政策、大企業を中心とした意欲的な投資に支えられ、公共・民間設備投資ともに底堅く推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは中期経営計画『Next Stage 2018』（2016～2018）の最終年度として、次の成長ステージに向かうべく、引き続き経営の合理化・効率化を推進し、経営資源を最大限に活かして、より一層の収益力向上を推し進めてまいりました。

その結果、当連結会計年度の業績につきましては、積極的な営業活動を展開し、受注の獲得に努め、安全を第一として、卓越した技術と誠実で高品質な施工により、売上高は575億2千4百万円（前期は526億2千9百万円）となりました。

利益につきましては、経営の効率化を推進し、収益の向上に努めた結果、営業損益は41億7千1百万円の営業利益（前期は39億5千7百万円の営業利益）、経常損益は48億3千5百万円の経常利益（前期は46億5千4百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する当期純損益は33億4千9百万円の当期純利益（前期は38億6千9百万円の当期純利益）となりました。

事業の種類別セグメントの連結業績は次のとおりであります。

#### (電気設備工事業)

電気設備工事業につきましては、受注工事高は523億4千9百万円（前期は565億4千万円）、完成工事高は539億3千3百万円（前期は490億6千9百万円）、営業利益は63億9千6百万円（前期は59億3百万円の営業利益）となりました。各部門の状況は次のとおりであります。前期から大幅な増減が見られるものは、いずれも大型プロジェクト工事の受注・完成が、前期あるいは当期に計上もしくは件数が集中したことが主要因となっております。

### 〔鉄道電気設備部門〕

鉄道電気設備工事につきましては、東日本旅客鉄道株式会社の安全・安定輸送に伴う設備更新工事等により、受注工事高は345億2千2百万円（前期は331億5千万円）、完成工事高は324億6千6百万円（前期は309億7千1百万円）となりました。

（注）鉄道電気設備工事とは、J R各社及び独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構等の信号保安設備、電車線路設備、発変電設備、電灯電力設備、電気通信設備、送電線路設備等の工事をいいます。

### 〔道路設備部門〕

道路設備工事につきましては、高速道路会社各社の標識工事、電気通信工事、警視庁及び各警察本部の交通信号機工事等により、受注工事高は89億2千9百万円（前期は103億8千1百万円）、完成工事高は96億3千9百万円（前期は87億9千1百万円）となりました。

（注）道路設備工事とは、高速道路会社各社及び各都道府県警察等の道路標識、道路標示、交通信号機、道路情報制御システム、遮音壁等の交通安全付帯設備の設計、施工、メンテナンス等の工事をいいます。

### 〔屋内外電気設備部門〕

屋内外電気設備工事につきましては、官公庁施設・商業施設・銀行関連施設等の電気設備新設・改修工事、民間事業者による太陽光発電設備工事等により、受注工事高は47億2千2百万円（前期は78億4千9百万円）、完成工事高は56億8百万円（前期は35億9千万円）となりました。

（注）屋内外電気設備工事とは、受変電設備、自家発電設備、動力設備、電灯設備、電話設備、LAN等情報関連設備、自動火災報知設備、その他通信関連設備等建築物に施設される屋内電気設備と、太陽光発電、光通信ケーブル布設、屋外施設照明、テレビ電波障害対策等の屋外電気設備に関し、企画、設計から施工、メンテナンスまでの工事をいいます。

### 〔送電線部門〕

送電線工事につきましては、電力会社各社の架空送電線路工事、通信事業会社各社の情報通信工事等により、受注工事高は41億7千5百万円（前期は51億5千9百万円）、完成工事高は62億1千9百万円（前期は57億1千5百万円）となりました。

（注）送電線工事とは、電力会社各社、電源開発株式会社等の送電線路、電気通信設備の工事をいいます。

**(兼業事業)**

兼業事業につきましては、主に道路標識、交通安全用品の販売等により、売上高は31億5千8百万円（前期は31億4千7百万円）、営業利益は3億1千万円（前期は3億2千6百万円の営業利益）となりました。

**(不動産賃貸事業)**

不動産賃貸事業につきましては、主にオフィスビルの賃貸等により、売上高は4億3千2百万円（前期は4億1千2百万円）、営業利益は2億1千万円（前期は1億4千9百万円の営業利益）となりました。

(2) 設備投資の状況

当連結会計年度における設備投資額は18億2千3百万円であり、その主なものは総合研修センター屋外実習設備、大宮支社建物及びリース資産（工事用車両等）の取得であります。

(3) 資金調達の状況

当連結会計年度において、増資等による資金調達は行っておりません。

## 2. 直前3事業年度の財産及び損益の状況

### (1) 企業集団の財産及び損益の状況

| 区 分                 | 第 7 期<br>(2016年3月期) | 第 8 期<br>(2017年3月期) | 第 9 期<br>(2018年3月期) | 第 10 期<br>(当連結会計年度)<br>(2019年3月期) |
|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-----------------------------------|
| 受 注 工 事 高(百万円)      | 52,693              | 52,411              | 56,540              | 52,349                            |
| 売 上 高(百万円)          | 52,639              | 54,601              | 52,629              | 57,524                            |
| 経 常 利 益(百万円)        | 4,605               | 5,135               | 4,654               | 4,835                             |
| 親会社株主に帰属<br>する当期純利益 | 2,860               | 3,584               | 3,869               | 3,349                             |
| 1株当たり当期純利益          | 113円71銭             | 142円53銭             | 153円86銭             | 133円19銭                           |
| 総 資 産(百万円)          | 64,415              | 67,781              | 71,859              | 76,880                            |
| 純 資 産(百万円)          | 39,192              | 42,681              | 46,427              | 49,266                            |
| 1株当たり純資産額           | 1,558円25銭           | 1,696円96銭           | 1,845円89銭           | 1,958円77銭                         |

- (注) 1. 1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式総数から期中平均自己株式数を控除した株式数に基づき算定し、1株当たり純資産額は期末発行済株式総数から期末自己株式数を控除した株式数に基づき算定しております。
2. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当連結会計年度より適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更するとともに、前連結会計年度の金額は組替え後の金額で表示しております。

### (2) 当社の財産及び損益の状況

| 区 分            | 第 7 期<br>(2016年3月期) | 第 8 期<br>(2017年3月期) | 第 9 期<br>(2018年3月期) | 第 10 期<br>(当事業年度)<br>(2019年3月期) |
|----------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------------------|
| 受 注 工 事 高(百万円) | 49,992              | 48,946              | 52,991              | 48,047                          |
| 売 上 高(百万円)     | 47,432              | 48,873              | 46,453              | 51,002                          |
| 経 常 利 益(百万円)   | 3,707               | 3,986               | 3,461               | 3,737                           |
| 当 期 純 利 益(百万円) | 2,433               | 2,657               | 2,911               | 2,483                           |
| 1株当たり当期純利益     | 96円75銭              | 105円66銭             | 115円74銭             | 98円74銭                          |
| 総 資 産(百万円)     | 54,357              | 56,508              | 59,497              | 63,589                          |
| 純 資 産(百万円)     | 30,753              | 33,193              | 35,927              | 38,015                          |
| 1株当たり純資産額      | 1,222円71銭           | 1,319円72銭           | 1,428円43銭           | 1,511円46銭                       |

- (注) 1. 1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式総数から期中平均自己株式数を控除した株式数に基づき算定し、1株当たり純資産額は期末発行済株式総数から期末自己株式数を控除した株式数に基づき算定しております。
2. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当事業年度より適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更するとともに、前事業年度のコ額は組替え後の金額で表示しております。

### 3. 重要な親会社及び子会社の状況

#### (1) 親会社の状況

該当事項はありません。

#### (2) 子会社の状況

| 会 社 名             | 資 本 金 | 当社の議決権比率 | 主 要 な 事 業 内 容                  |
|-------------------|-------|----------|--------------------------------|
|                   | 百万円   | %        |                                |
| 株式会社保安サプライ        | 60    | 100      | 鉄道標識及び道路標識の製造販売                |
| 株式会社シーディーサービス     | 30    | 100      | 建物及び電気設備の保守管理、機器工具類の保管・販売      |
| 株式会社保工北海道         | 20    | 100      | 北海道地区における交通信号機、道路標識、道路標示の設計・施工 |
| 株式会社保工東北          | 20    | 100      | 東北地区における交通信号機、道路標識の設計・施工       |
| N R 電車線テクノ株式会社    | 10    | 100      | 電気工事（主に電車線工事）の請負及び監理           |
| 交通安全施設株式会社        | 20    | 100      | 関東地区における交通信号機、道路標識の設計・施工       |
| N R シェアードサービス株式会社 | 20    | 100      | 総務、財務、人事及び経営企画に関する業務の代行等       |

### 4. 対処すべき課題

今後の日本経済につきましては、緩和的な金融環境や政府支出による下支えなどを背景に、引き続き景気は緩やかな回復基調が続くものと見込まれております。しかしながら、米中通商摩擦や英国EU離脱の動向など、海外経済の不確実性が高まっているのと同時に、国内では消費税率の引き上げも予定されており、企業業績や消費者マインドにどのような影響を与えるか注視していかねばならない状況となっております。

建設業界におきましては、公共設備投資が高めの水準を維持しつつ、民間設備投資においても景気拡大に沿った能力増強投資、人手不足に伴う省力化投資の増加が見込まれるなど、概ね安定した市場環境が想定されている一方で、慢性的な労働力不足と働き方改革を背景とする生産性向上といった課題を抱えており、収益力強化への取り組みが急務となっております。

このような状況の中、当社グループは会社合併から10年の節目を経過した今年度、新たな中期経営計画「Challenging RIETEC 2021」をスタートさせました。当社グループは、工事を通して社会インフラを支えることで社会に貢献しておりますが、本格的な人口減少時代の到来、IT化・技術革新が急激に加速する中においても、継続してその使命を果たしていかなければなりません。そのためにも、当社グループは社会の変化に常に真正面から立ち向かい、失敗を恐れず自己変革に挑み続け、皆さまの負託に応えてまいります。

## 経営の基本方針

当社グループは、鉄道専門技術の特性を活かした総合電気工事会社として、安全を第一に、品質の向上と技術の研鑽に努め、変革に挑み続けます。そして、卓越した技術と誠実な施工により、お客様から信頼され、お客様とともに成長し、広く社会基盤の構築に貢献致します。

### 【安全】

安全は経営の根幹である。労働災害及び重大事故ゼロを目指して、役員、社員一人ひとりが自らの職責を全うして安全を築き上げます。

### 【意識改革で会社の発展】

役員、社員一人ひとりが、常にチャレンジ精神で自ら考え行動することにより、競争力と収益力に優れた企業として、持続的に成長し企業価値の向上を目指します。

### 【社員の働きがい】

役員、社員一人ひとりが、仕事に誇りを持って自らの成長に努め、社会への貢献を通じて、仕事と生活の調和のとれた働きがいのある職場を実現します。

## 5. 主要な事業内容（2019年3月31日現在）

当社グループは建設業法により、特定建設業者及び一般建設業者として国土交通大臣の許可を受け、鉄道電気設備工事、道路設備工事、屋内外電気設備工事、送電線工事等の工事請負及びこれに附帯する事業を行うほか、標識類の販売及び不動産の賃貸を行っております。

## 6. 主要な事業所（2019年3月31日現在）

### (1) 当社の主要な事業所

- ① 本店 東京都千代田区神田錦町一丁目6番地
- ② 本部・支店

| 名 称      | 所 在 地         | 名 称         | 所 在 地         |
|----------|---------------|-------------|---------------|
| 【本 部】    |               | 【支 店】       |               |
| 鉄 道 本 部  | 東 京 都 千 代 田 区 | 盛 岡 支 店     | 岩 手 県 盛 岡 市   |
| 社会インフラ本部 | 東 京 都 千 代 田 区 | 仙 台 支 店     | 仙 台 市 宮 城 野 区 |
| 電力システム本部 | 東 京 都 千 代 田 区 | 新 潟 支 店     | 新 潟 市 江 南 区   |
|          |               | 中 央 支 店     | 千 葉 県 松 戸 市   |
|          |               | 横 浜 支 店     | 横 浜 市 磯 子 区   |
|          |               | 千 葉 支 店     | 千 葉 市 中 央 区   |
|          |               | 高 崎 支 店     | 群 馬 県 高 崎 市   |
|          |               | 道 路 設 備 支 店 | 東 京 都 品 川 区   |
|          |               | 交通システム支店    | 東 京 都 江 戸 川 区 |
|          |               | ビルインフラ支店    | 東 京 都 荒 川 区   |
|          |               | 関 西 統 括 支 店 | 大 阪 市 北 区     |
|          |               | 中 国 支 店     | 広 島 市 東 区     |

（注）当社の施工体制は鉄道本部、社会インフラ本部、電力システム本部の3本部にて構成されており、地方営業拠点につきましては各本部の管轄下に置いております。

### (2) 子会社

| 会 社 名           | 所 在 地                  |
|-----------------|------------------------|
| 株式会社保安サプライ      | 東京都中央区日本橋本石町三丁目2番4号    |
| 株式会社シーディーサービス   | 東京都台東区下谷一丁目13番地6号      |
| 株式会社保工北海道       | 北海道札幌市中央区北一条東十四丁目1番地12 |
| 株式会社保工東北        | 宮城県仙台市宮城野区岩切分台一丁目8番地の8 |
| NR電車線テクノ株式会社    | 東京都荒川区西尾久四丁目14番6号      |
| 交通安全施設株式会社      | 東京都品川区大崎三丁目6番21号       |
| NRシェアードサービス株式会社 | 東京都千代田区神田錦町一丁目16番1号    |

## 7. 従業員の状況（2019年3月31日現在）

### (1) 企業集団の従業員の状況

| 区 分 | 従 業 員 数 | 前連結会計年度末比増減 |
|-----|---------|-------------|
| 男 性 | 1,334名  | 21名増        |
| 女 性 | 148名    | 11名増        |
| 合 計 | 1,482名  | 32名増        |

（注）従業員数には、当社グループ外からの出向者59名及び臨時従業員93名を含み、当社グループ外への出向者21名は含んでおりません。

### (2) 当社の従業員の状況

| 区 分 | 従 業 員 数 | 前事業年度末比増減 | 平 均 年 齢 | 平 均 勤 続 年 数 |
|-----|---------|-----------|---------|-------------|
| 男 性 | 1,046名  | 14名増      | 41.3歳   | 15.1年       |
| 女 性 | 76名     | 2名増       | 44.4歳   | 14.1年       |
| 合 計 | 1,122名  | 16名増      | 41.5歳   | 15.1年       |

（注）従業員数には、社外からの出向者64名及び臨時従業員70名を含み、社外への出向者38名は含んでおりません。

## 8. 主要な借入先の状況（2019年3月31日現在）

該当事項はありません。

## 9. その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## Ⅱ. 会社の現況

### 1. 株式の状況（2019年3月31日現在）

- (1) 発行可能株式総数 50,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 25,617,717株（自己株式466,198株を含む）
- (3) 株 主 数 1,925名
- (4) 大 株 主（上位10名）

| 株 主 名                                                                     | 持 株 数 | 持 株 比 率 |
|---------------------------------------------------------------------------|-------|---------|
|                                                                           | 千株    | %       |
| 東 日 本 旅 客 鉄 道 株 式 会 社                                                     | 4,319 | 17.2    |
| 日 本 リ ー テ ッ ク 取 引 先 持 株 会                                                 | 1,424 | 5.7     |
| 日 本 リ ー テ ッ ク 従 業 員 持 株 会                                                 | 1,359 | 5.4     |
| BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND                                    | 1,163 | 4.6     |
| 住 友 電 気 工 業 株 式 会 社                                                       | 1,056 | 4.2     |
| 日 本 電 設 工 業 株 式 会 社                                                       | 1,045 | 4.2     |
| BBH FOR FIDELITY PURITAN TR : FIDELITY<br>SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND | 1,041 | 4.1     |
| 株 式 会 社 み ず ほ 銀 行                                                         | 1,009 | 4.0     |
| 株 式 会 社 三 菱 U F J 銀 行                                                     | 987   | 3.9     |
| ト ー グ 安 全 工 業 株 式 会 社                                                     | 649   | 2.6     |

（注）持株比率は自己株式（466,198株）を控除して計算しております。

### 2. 新株予約権等の状況

該当事項はありません。

### 3. 会社役員の状況

#### (1) 取締役及び監査役の状況（2019年3月31日現在）

| 会社における地位 | 氏名                   | 担当及び重要な兼職の状況                                      |
|----------|----------------------|---------------------------------------------------|
| 代表取締役社長  | たなべ しょうじ<br>田 邊 昭 治  |                                                   |
| 常務取締役    | おおもり いくお<br>大 森 郁 雄  | 経営企画部長、総務部長、コンプライアンス担当<br>東日本電気エンジニアリング株式会社 社外取締役 |
| 取締役      | さわむら まさあき<br>澤 村 正 彰 | 財務部長、監査部担当、人事部担当、資材部担当                            |
| 取締役      | さとう たかひろ<br>佐 藤 隆 弘  | 鉄道本部長、安全推進部担当<br>東日本旅客鉄道株式会社 鉄道事業本部 電気ネットワーク部付勤務  |
| 取締役      | きたはら ゆうじ<br>北 原 雄 二  | 弁護士                                               |
| 取締役      | いけだ あきひろ<br>池 田 章 弘  | 東日本旅客鉄道株式会社 鉄道事業本部 電気ネットワーク部次長                    |
| 取締役      | さくま はじめ<br>佐 久 間 一   | 東京建物株式会社 特別顧問                                     |
| 常勤監査役    | ひらい けんじ<br>平 井 憲 司   |                                                   |
| 監査役      | えんどう しげき<br>遠 藤 茂 樹  |                                                   |
| 監査役      | おおの まさと<br>大 野 雅 人   | 国立大学法人 筑波大学 教授                                    |

- (注) 1. 取締役北原雄二氏、取締役池田章弘氏及び取締役佐久間一氏は、社外取締役であります。
2. 監査役遠藤茂樹氏及び監査役大野雅人氏は、社外監査役であります。
3. 当社は、取締役北原雄二氏、取締役佐久間一氏、監査役遠藤茂樹氏及び監査役大野雅人氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
4. 常勤監査役平井憲司氏は、長年にわたり当社の執行役員として財務部門を担当していた経験があり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
5. 監査役大野雅人氏は、長年にわたり国税庁での業務経験があり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
6. 常務取締役大森郁雄氏は、2018年6月27日付で東日本電気エンジニアリング株式会社の社外取締役に就任いたしました。
7. 取締役佐久間一氏は、2019年3月27日付で東京建物株式会社の取締役取締役会議長から特別顧問に就任いたしました。
8. 監査役大野雅人氏は、2019年3月31日付で国立大学法人筑波大学教授を退任いたしました。また同氏は2019年4月1日付で学校法人明治大学専任教授に就任いたしました。
9. 2018年6月27日開催の第9期定時株主総会終結の時をもって、取締役宮部金彦氏が任期満了にて退任し、監査役岡田正意氏が辞任により退任いたしました。

10. 当社では、監督と執行の分離を図るため、2009年4月1日より執行役員制度を導入しております。  
2019年6月26日現在(予定)の執行役員及び担当業務は次のとおりであります。

|        |       |                |
|--------|-------|----------------|
| 専務執行役員 | 鈴木 敏彦 | (鉄道本部長)        |
| 常務執行役員 | 宮部 金彦 | (社会インフラ本部長)    |
| 執行役員   | 佐藤 康  | (鉄道本部仙台支店長)    |
| 執行役員   | 鍋 賢一  | (鉄道本部中央支店副支店長) |
| 執行役員   | 薄井 利夫 | (鉄道本部中央支店副支店長) |
| 執行役員   | 地家 龍一 | (鉄道本部中央支店副支店長) |
| 執行役員   | 石田 辰男 | (社会インフラ本部副本部長) |
| 執行役員   | 真鍋 正臣 | (社会インフラ本部副本部長) |
| 執行役員   | 武知 信宏 | (電力システム本部長)    |

(2) 責任限定契約の内容の概要

当社と各社外取締役及び各社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく社外取締役及び社外監査役の損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項が定める額としております。

(3) 取締役及び監査役に支払った報酬等の総額

| 区 分                | 支 給 人 員     | 支 給 額                   |
|--------------------|-------------|-------------------------|
| 取 締 役<br>(うち社外取締役) | 8名<br>(3名)  | 119,609千円<br>(16,045千円) |
| 監 査 役<br>(うち社外監査役) | 4名<br>(3名)  | 23,987千円<br>(10,155千円)  |
| 合 計<br>(うち社外役員)    | 12名<br>(6名) | 143,597千円<br>(26,200千円) |

- (注) 1. 上記には、当事業年度中に退任した取締役1名及び監査役1名(うち社外監査役1名)に対する支給等の額及び員数が含まれております。
2. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
3. 取締役の報酬限度額は、2018年6月27日開催の定時株主総会において年額3億円以内(うち社外取締役の報酬限度額は年額5千万円以内とし、使用人分給与は含まない)と決議いただいております。
4. 監査役の報酬限度額は、2006年6月29日開催の定時株主総会において年額6千万円以内と決議いただいております。
5. 取締役報酬等の支給額には、当事業年度中に役員賞与引当金として費用計上した34,410千円(うち社外取締役5,890千円)及び当事業年度中に退職慰労引当金として費用計上した8,777千円(うち社外取締役105千円)を含んでおります。
6. 監査役報酬等の支給額には、当事業年度中に退職慰労引当金として費用計上した1,337千円(うち社外監査役105千円)を含んでおります。

7. 上記のほか、2018年6月27日開催の定時株主総会決議に基づき、役員退職慰労金を次のとおり支給しております。

退任取締役 1名 2,270千円  
退任監査役 1名 840千円（うち社外監査役1名 840千円）

また、2018年6月27日開催の第9期定時株主総会の決議に基づく、役員退職慰労金制度廃止に伴う打切り支給予定額の残高は、次のとおりであります。なお、これらの金額には、上記及び過年度の事業報告において開示した役員退職慰労引当金の繰入額が含まれております。

取締役 6名 39,280千円（うち社外取締役2名 840千円）  
監査役 2名 4,960千円（うち社外監査役1名 420千円）

#### (4) 社外役員に関する事項

##### ① 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

- ・取締役池田章弘氏は、当社の主要な取引先である東日本旅客鉄道株式会社の鉄道事業本部電気ネットワーク部次長を兼務しております。東日本旅客鉄道株式会社は、当社と電気設備工事の施工の取引関係があり、当社の大株主となっております。
- ・取締役佐久間一氏は、東京建物株式会社の特別顧問であります。東京建物株式会社と当社との間には特別な関係はありません。
- ・監査役大野雅人氏は、2019年3月31日付で国立大学法人筑波大学の教授を退任し、2019年4月1日付で学校法人明治大学の専任教授に就任しております。両校と当社との間には特別な関係はありません。

##### ② 当事業年度における主な活動状況

| 区 分   | 氏 名                   | 活 動 状 況                                                                                                        |
|-------|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取 締 役 | きた はら ゆう じ<br>北 原 雄 二 | 当事業年度に開催された取締役会に14回中14回出席し、主に弁護士として豊富な知識・経験から助言・提言を行っております。                                                    |
| 取 締 役 | いけ だ あき ひろ<br>池 田 章 弘 | 当事業年度に開催された取締役会に14回中14回出席し、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。                                             |
| 取 締 役 | さ く ま はじめ<br>佐 久 間 一  | 当事業年度において、2018年6月27日就任以降に開催された取締役会に10回中10回出席し、会社役員として培われた豊富な経験と幅広い見識に基づき取締役の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。 |
| 監 査 役 | えん どう しげ き<br>遠 藤 茂 樹 | 当事業年度に開催された取締役会に14回中14回、監査役会に15回中15回出席し、これまで培われた豊富な経験と幅広い見識に基づき発言を行っております。                                     |
| 監 査 役 | おお の まさ と<br>大 野 雅 人  | 当事業年度において、2018年6月27日就任以降に開催された取締役会に10回中9回、監査役会に10回中9回出席し、これまで培われた税務に関する専門的な知識と大学教授としての幅広い見識に基づき発言を行っております。     |

4. 会計監査人の状況

(1) 名 称 有限責任あずさ監査法人

(2) 報酬等の額

|                                     | 支 払 額 |
|-------------------------------------|-------|
| 当事業年度に係る報酬等の額                       | 45百万円 |
| 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 45百万円 |

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確には区分しておらず、実質的にも区分できないため、当事業年度に係る報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、監査項目別監査時間及び監査報酬の推移並びに過年度の監査計画と実績の状況を確認し、当事業年度の監査時間及び報酬額の妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

(4) 会計監査人の解任又は不再任の決定方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、監査役会が会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

## 5. 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況の概要

### (1) 業務の適正を確保するための体制

当社は、2019年4月25日開催の取締役会において、当事業年度中の有効性について審議し、現在有効となる内部統制システム構築の基本方針を以下の内容で決議しております。

#### 【内部統制システム構築の基本方針】

#### ① 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ・ 日本リーテックグループは、コーポレートガバナンス体制の中において、コンプライアンス・マニュアルを設け、以下を定めている。

企業の役員、使用人が法令を遵守することは当然であり、社会の構成員としての企業人、社会人として求められる倫理観・価値観に基づき誠実に行動することが求められる。日本リーテックグループは、この観点から社会規範及び倫理並びに法令等厳守することにより、公正かつ適切な経営の実現を図る。

- ・ 日本リーテックグループ各社の取締役は、この実践のための経営の基本方針をはじめ企業行動規範及び日本リーテックグループ各社の倫理方針に従い、日本リーテックグループ全体における法令並びに企業倫理の遵守と浸透を図る。
- ・ 当社はコンプライアンス責任者として担当取締役を任命し、日本リーテックグループとしてのコンプライアンス体制の整備並びに問題点の把握に努める。

#### ② 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ・ 当社は使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するため、経営の基本方針の他、コンプライアンス・マニュアル及び日本リーテックグループ各社の倫理方針を含めた実践的運用と徹底を行うとともに、経営環境の変化や内外の定期的な情報収集等により整備・改善を行う体制を構築する。また、業務執行担当取締役に日本リーテックグループ各社の使用人に対するコンプライアンス教育を行わせる。
- ・ 日本リーテックグループの使用人は、日本リーテックグループ各社における重大な法令違反その他コンプライアンスに関する重要な事実を発見した場合、所属会社又は当社に報告する。コンプライアンス担当取締役は、当該報告された事実についての調査を指揮、監督し、代表取締役と協議のうえ必要と認める場合は適切な対策を講じる。
- ・ 日本リーテックグループにおける法令遵守上疑義ある行為等について、使用人が直接通報できる手段を確保するとともに通報者に不利益がないことを確保する。

- ・ 重要な通報については、その内容と会社の対処状況、結果について適切に日本リーテックグループの取締役、使用人に開示し周知徹底する。
  - ・ コンプライアンス担当取締役は、総務部を直轄する。総務部はコンプライアンス担当取締役の指示により、日本リーテックグループのコンプライアンス体制維持並びに業務執行状況の把握に努める。
- ③ 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
- ・ 取締役は、その職務の執行に係る以下の文書（電磁的記録含む）その他重要な情報を法令及び社内規程に基づき適切に保存、管理する。
    - a. 株主総会議事録、b. 取締役会議事録、c. 取締役が主催するその他重要会議の議事録、
    - d. 取締役を決定者とする決定書類及び附属書類、e. その他取締役会が決定する書類
  - ・ 取締役及び監査役は、常時上記に示す文書等を閲覧できるものとする。
- ④ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- ・ 当社の定めるコーポレートガバナンス体制におけるリスク管理体制を整備し、取締役会は企業価値を高め企業活動の持続的発展を実現することを脅かすあらゆるリスクに対処する。
  - ・ リスク管理体制整備のため、次の措置をとる。
    - a. リスク管理責任者として担当取締役を任命する。
    - b. リスク管理担当取締役は、リスク管理体制に基づき日本リーテックグループ全体のリスク管理体制の整備、浸透及び問題点の把握に努める。
    - c. 代表取締役を委員長とし、リスク管理担当取締役及び有事に関係する業務執行担当取締役、その他必要な人員を構成とするリスク統括委員会を設置し、有事に際しては即時、適切かつ迅速に対応する。
  - ・ 上記のほか、事業の継続を確保するため、以下のリスク体制を整備する。
    - a. 事故、火災、自然災害等重大な損失を被るリスク
    - b. 取締役及び使用人の不適正な業務執行により重大な支障を生じるリスク
    - c. 基幹ITシステムが正常に機能しないことにより重大な被害を被るリスク
    - d. その他取締役会が極めて重大と判断するリスク

- ⑤ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- ・ 代表取締役及びその他の業務執行担当取締役については、社内規程に基づき業務の執行を行わせる。
  - ・ 特定の事業部門ごとに責任を持つ執行役員への権限委譲を行うため執行役員制度を導入する。
  - ・ 取締役会機能を強化し、経営効率を向上させるため、代表取締役及びその他の業務執行担当取締役、その他必要な人員により構成する経営会議を設ける。
  - ・ 代表取締役及びその他の業務執行担当取締役に委任された事項については、社内規程による。なお、これらの規程は、法令の改廃があった場合及び職務執行の効率化が必要な場合、随時見直しをする。
- ⑥ 当該株式会社並びにその親会社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制
- ・ 当社は業務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための諸施策の他、日本リーテックグループとしてのコンプライアンス・マニュアルを整備する。
  - ・ 日本リーテックグループ各社の取引は、法令、会計規則、税法他社会規範に照らし適正なものでなければならない。
  - ・ 代表取締役及びコンプライアンス担当取締役は、日本リーテックグループ各社が適切な内部統制システムの整備を行うよう指導する。この中には日本リーテックグループ各社の取締役に対し、取締役職務の執行に係る事項の当社への報告、情報の保存及び管理に関する体制の整備について指導を行うことも含まれる。
  - ・ 当社監査部は、日本リーテックグループ各社における内部監査を実施し、日本リーテックグループ全体に亘る内部統制の有効性と妥当性を確保する。監査の計画、実施状況、結果はその重要度に応じ取締役会をはじめ経営会議に報告する。
  - ・ 日本リーテックグループ各社は、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは一切の関係を持たず、不当請求等には毅然とした態度で臨むものとする。
- ⑦ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
- 監査役の職務を補助すべき使用人については、必要に応じて監査役の業務補助のための監査役補助者を置くことができる。

- ⑧ 前号の使用人の取締役からの独立性並びに実効性に関する事項  
前号の補助者の独立性並びに実効性を確保するため、補助者は取締役の指揮命令に服さないものとし、人事異動、人事評価、懲戒処分は監査役会の承認を得なければならない。
- ⑨ 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制
- ・ 代表取締役及び業務執行担当取締役は、経営状況及び担当業務の執行状況の他、経営会議等重要な会議の内容について、定期的に監査役へ報告を行う。
  - ・ 代表取締役及び業務執行担当取締役は、以下に定める事項について遅滞なく監査役へ報告を行う。
    - a. 会社の信用を大きく低下させ、又はその恐れのある事項
    - b. 会社の業績に大きく影響を与え、又はその恐れのある事項
    - c. 安全、衛生、環境に関する重大な被害を与え、又はその恐れのある事項
    - d. コンプライアンス・マニュアルに定める企業行動規範に反する行為で重大な事項
    - e. その他日本リーテックグループ各社を含む上記aからdに準ずる事項
  - ・ 取締役及び使用人は、監査役が必要とする事項並びに日本リーテックグループ各社の業務及び財産状況を調査する場合は的確に対応する。
- ⑩ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- ・ 監査役の過半数は社外監査役とし、対外透明性を確保する。
  - ・ 監査体制の実効性を高めるため、監査役の監査環境を整備する。また、その職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続きその他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理等は速やかに行う。
  - ・ 監査役は代表取締役との定期的な意見交換を開催すると共に、監査部門との連携を図り、適切な意思疎通及び効果的監査業務の遂行を図る。
  - ・ 監査役は、会計監査人から会計監査内容について説明を受けると共に情報交換を行うなど連携を図って行く。
- ⑪ 信頼性のある財務報告を確保するための体制
- ・ 財務報告の作成にあたっては、公正妥当な会計基準に準拠した経理規程を定める。
  - ・ 信頼性ある財務報告を確保するための内部統制システムの整備状況及び運用状況を経営者自ら評価し、有価証券報告書内で内部統制報告書として結果報告を行うと共に、不備事項については適時に改善を実施する。

- ・ 財務報告における内部統制の役割について社内通知徹底を図るため、定期的な研修の実施を行う。

## (2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社は、業務の適正を確保するための体制に関する基本方針に基づいて、体制の整備とその適切な運用に努めております。当事業年度における当該体制の運用状況の概要は次のとおりとなります。

### 【内部統制システムの運用状況の概要について】

#### ① コンプライアンスに関する取組み

当社は、当社グループに従事する全従業員の行動指針として「日本リーテックグループコンプライアンス・マニュアル」を制定しております。また階層別研修や各事業拠点の機関会議、毎年6月の「コンプライアンスの日」等において、定期的にコンプライアンス教育や総点検を実施するなど、コンプライアンスに対する意識の向上に努めております。

また、コンプライアンス相談窓口として、当社グループ社員が直接通報できる内部ヘルプラインと、顧問弁護士事務所を通じて通報できる外部ヘルプラインを設け、問題の早期発見と改善措置に努めております。

#### ② 取締役の業務執行の適正及び効率性の確保に関する取組み

当社の取締役会は、取締役7名（うち社外取締役3名）で構成され、各業務執行取締役から業務執行状況の報告が行われるとともに、重要事項の審議・決議を行っております。なお、社外取締役は、独立した立場から決議に加わると共に、経営の監視・監督を行っております。

#### ③ 損失の危険の管理に関する取組み

当社において発生が懸念されるリスクや事象を類型別にまとめ、毎年2回、経営会議をはじめとする機関会議において周知徹底を行い、リスク発生の未然防止と適切な管理に努めております。

④ 当社グループにおける業務の適正の確保に関する取組み

当社は、一定の事項について日本リーテックグループ各社に報告を求め、承認を行う体制としている他、毎年2回、グループ各社の社長が出席する「グループ会社社長会」を開催し、経営状況や業務執行状況等についての報告を受け、指導を行っております。

また、グループ会社の役員を対象とした研修会を開催しており、ガバナンス体制の強化に努めております。

⑤ 監査役への報告及び監査の実効性確保等に関する取組み

当社の監査役は、取締役会に出席して経営の監査を行っております。また、常勤監査役については、経営会議等の重要会議に出席すると共に、取締役から業務執行の状況について直接聴取を行い、業務執行の状況やコンプライアンスに関する問題点を日常業務レベルで監視する体制を整備しており、経営監視機能の強化及び向上を図っております。

---

◎ 本事業報告中に記載しております数字は、1株当たり当期純利益・1株当たり純資産額を除く金額及び株式数については表示単位未満の端数を切り捨て、その他は四捨五入により表示しております。

# 連結貸借対照表

(2019年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額               | 科 目             | 金 額               |
|-----------------|-------------------|-----------------|-------------------|
| ( 資 産 の 部 )     |                   | ( 負 債 の 部 )     |                   |
| <b>流動資産</b>     | <b>43,008,258</b> | <b>流動負債</b>     | <b>20,870,468</b> |
| 現金預金            | 8,274,719         | 支払手形・工事未払金等     | 10,287,205        |
| 受取手形・完成工事未収入金等  | 32,589,593        | 未払法人税等          | 1,528,517         |
| 未成工事支出金         | 804,345           | 未成工事受入金         | 2,010,805         |
| 材料貯蔵品等          | 352,881           | 完成工事補償引当金       | 2,298             |
| その他             | 986,873           | 工事損失引当金         | 113,718           |
| 貸倒引当金           | △155              | 賞与引当金           | 1,700,465         |
|                 |                   | 役員賞与引当金         | 68,739            |
|                 |                   | その他             | 5,158,717         |
| <b>固定資産</b>     | <b>33,872,586</b> | <b>固定負債</b>     | <b>6,744,305</b>  |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>18,127,163</b> | リース債務           | 868,200           |
| 建物・構築物          | 8,826,137         | 退職給付に係る負債       | 5,401,152         |
| 機械・運搬具及び工具器具備品  | 531,926           | 役員退職慰労引当金       | 30,287            |
| 土地              | 7,592,712         | その他             | 444,665           |
| リース資産           | 1,014,939         | <b>負債合計</b>     | <b>27,614,774</b> |
| 建設仮勘定           | 161,446           | ( 純 資 産 の 部 )   |                   |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>168,712</b>    | <b>株主資本</b>     | <b>46,704,960</b> |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>15,576,710</b> | 資本金             | 1,430,962         |
| 投資有価証券          | 14,926,416        | 資本剰余金           | 3,205,423         |
| 繰延税金資産          | 247,392           | 利益剰余金           | 42,411,590        |
| その他             | 418,406           | 自己株式            | △343,016          |
| 貸倒引当金           | △15,505           | その他の包括利益累計額     | 2,561,110         |
|                 |                   | その他有価証券評価差額金    | 2,639,190         |
|                 |                   | 退職給付に係る調整累計額    | △78,079           |
| <b>資産合計</b>     | <b>76,880,845</b> | <b>純資産合計</b>    | <b>49,266,070</b> |
|                 |                   | <b>負債・純資産合計</b> | <b>76,880,845</b> |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

招集・通知

事業報告

計算書類

監査報告

株主総会参考書類

# 連結損益計算書

(2018年4月1日から  
2019年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目                    | 金 額        |            |
|------------------------|------------|------------|
| <b>売上高</b>             |            |            |
| 完成工事高                  | 53,933,695 |            |
| 兼業事業売上高                | 3,158,183  |            |
| 不動産事業売上高               | 432,719    | 57,524,598 |
| <b>売上原価</b>            |            |            |
| 完成工事原価                 | 46,369,339 |            |
| 兼業事業売上原価               | 2,362,627  |            |
| 不動産事業売上原価              | 221,935    | 48,953,902 |
| <b>売上総利益</b>           |            |            |
| 完成工事総利益                | 7,564,356  |            |
| 兼業事業総利益                | 795,555    |            |
| 不動産事業総利益               | 210,783    | 8,570,695  |
| <b>販売費及び一般管理費</b>      |            | 4,398,801  |
| <b>営業利益</b>            |            | 4,171,893  |
| <b>営業外収益</b>           |            |            |
| 受取利息配当金                | 131,967    |            |
| 持分法投資利益                | 558,164    |            |
| 雑収入                    | 98,605     | 788,737    |
| <b>営業外費用</b>           |            |            |
| 支払利息                   | 46,730     |            |
| 物品売却損                  | 59,280     |            |
| 雑支出                    | 18,902     | 124,913    |
| <b>経常利益</b>            |            | 4,835,718  |
| <b>特別利益</b>            |            |            |
| 固定資産売却益                | 658        |            |
| 受取保険金                  | 26,613     | 27,271     |
| <b>特別損失</b>            |            |            |
| 固定資産除売却損               | 37,244     |            |
| 減損損失                   | 47,486     |            |
| 損害賠償金                  | 10,345     | 95,076     |
| <b>税金等調整前当期純利益</b>     |            | 4,767,912  |
| 法人税、住民税及び事業税           | 1,506,753  |            |
| 法人税等調整額                | △88,829    | 1,417,923  |
| <b>当期純利益</b>           |            | 3,349,988  |
| <b>親会社株主に帰属する当期純利益</b> |            | 3,349,988  |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結株主資本等変動計算書

(2018年4月1日から)  
(2019年3月31日まで)

(単位：千円)

| 項 目                     | 株主資本      |           |            |          |            |
|-------------------------|-----------|-----------|------------|----------|------------|
|                         | 資本金       | 資本剰余金     | 利益剰余金      | 自己株式     | 株主資本合計     |
| 当期首残高                   | 1,430,962 | 3,205,423 | 39,514,333 | △342,752 | 43,807,966 |
| 当期変動額                   |           |           |            |          |            |
| 剰余金の配当                  |           |           | △452,730   |          | △452,730   |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益     |           |           | 3,349,988  |          | 3,349,988  |
| 自己株式の取得                 |           |           |            | △264     | △264       |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） |           |           |            |          |            |
| 当期変動額合計                 |           |           | 2,897,257  | △264     | 2,896,993  |
| 当期末残高                   | 1,430,962 | 3,205,423 | 42,411,590 | △343,016 | 46,704,960 |

| 項 目                     | その他の包括利益累計額      |                  |                   | 純資産合計      |
|-------------------------|------------------|------------------|-------------------|------------|
|                         | その他有価証券<br>評価差額金 | 退職給付に係る<br>調整累計額 | その他の包括利益<br>累計額合計 |            |
| 当期首残高                   | 2,572,005        | 47,175           | 2,619,180         | 46,427,147 |
| 当期変動額                   |                  |                  |                   |            |
| 剰余金の配当                  |                  |                  |                   | △452,730   |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益     |                  |                  |                   | 3,349,988  |
| 自己株式の取得                 |                  |                  |                   | △264       |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） | 67,185           | △125,255         | △58,070           | △58,070    |
| 当期変動額合計                 | 67,185           | △125,255         | △58,070           | 2,838,923  |
| 当期末残高                   | 2,639,190        | △78,079          | 2,561,110         | 49,266,070 |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

# 連 結 注 記 表

## (連結計算書類作成のための基本となる重要事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社の数…7社

(株)保安サプライ、(株)シーディーサービス、(株)保工北海道

(株)保工東北、NR 電車線テクノ(株)、交通安全施設(株)、NR シェアードサービス(株)

#### (2) 非連結子会社の名称等

NR 信号システム(株)

非連結子会社は、小規模会社であり、総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていません。

### 2. 持分法の適用に関する事項

#### (1) 持分法を適用した関連会社の数…2社

日本鉄道電気設計(株)、東日本電気エンジニアリング(株)

#### (2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称等

NR 信号システム(株)

(株)ケンセイ

持分法を適用しない会社は、それぞれ連結純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）が連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。なお、(株)ケンセイは2018年6月13日の株式取得に伴い当連結会計年度より関連会社となっております。

### 3. 会計方針に関する事項

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

#### (2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

未成工事支出金

個別法による原価法

材料貯蔵品等

移動平均法による原価法（連結貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

#### (3) 固定資産の減価償却方法

有形固定資産

（リース資産を除く）

定率法、ただし1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く。）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

無形固定資産

定額法

また、自社利用のソフトウェアは、社内における利用可能期間5年に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(4) 引当金の計上基準  
貸倒引当金

完成工事補償引当金

工事損失引当金

賞与引当金

役員賞与引当金

役員退職慰労引当金

金銭債権の取立不能による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

完成工事にかかる責任補修費用の支出に備えるため設定しており、完成工事高に対する将来の見積補償額に基づいて計上しております。

受注工事の損失に備えるため、工事損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積もることができる工事について、その損失見積額を計上しております。

従業員に支給する賞与に備えるため、当連結会計年度に対応する支給見込額を計上しております。

役員に支給する賞与に備えるため、当連結会計年度に対応する支給見込額を計上しております。

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(5) その他連結計算書類の作成のための重要な事項

① 完成工事高の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積は原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

② 退職給付に係る負債の計上基準

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を計上しております。

過去勤務費用については、発生時に一括費用処理することとしております。

数理計算上の差異については、発生時の翌連結会計年度に一括費用処理しております。

なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

③ 消費税等の経理方式

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

ただし、資産に係る控除対象外消費税等は、発生した連結会計年度の期間費用としております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）に伴う「会社法施行規則及び会社計算規則の一部を改正する省令」（平成30年法務省令第5号 平成30年3月26日）による改正後の会社計算規則に基づき、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

**(連結貸借対照表に関する注記)**

- |                    |             |
|--------------------|-------------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額  | 9,428,856千円 |
| 2. 保証債務            |             |
| 従業員の住宅資金借入に対する債務保証 | 4,259千円     |
| 3. 債権流動化による売却債権譲渡高 |             |
| 受取手形・完成工事未収入金等     | 4,742,107千円 |

**(連結株主資本等変動計算書に関する注記)**

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

|        | 当連結会計年度期首<br>株式数 (株) | 当連結会計年度増加<br>株式数 (株) | 当連結会計年度減少<br>株式数 (株) | 当連結会計年度末<br>株式数 (株) |
|--------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| 発行済株式数 |                      |                      |                      |                     |
| 普通株式   | 25,617,717           | —                    | —                    | 25,617,717          |
| 合  計   | 25,617,717           | —                    | —                    | 25,617,717          |
| 自己株式数  |                      |                      |                      |                     |
| 普通株式   | 466,025              | 173                  | —                    | 466,198             |
| 合  計   | 466,025              | 173                  | —                    | 466,198             |

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加173株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 当連結会計年度中に行った剰余金の配当に関する事項

| 決議                   | 株式の種類 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり配当額<br>(円) | 基準日            | 効力発生日          |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|----------------|----------------|
| 2018年6月27日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 452,730        | 18.00           | 2018年<br>3月31日 | 2018年<br>6月28日 |

3. 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| 決議予定                 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり配当額<br>(円) | 基準日            | 効力発生日          |
|----------------------|-------|-------|----------------|-----------------|----------------|----------------|
| 2019年6月26日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 利益剰余金 | 553,333        | 22.00           | 2019年<br>3月31日 | 2019年<br>6月27日 |

## (金融商品に関する注記)

### 1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

受取手形・完成工事未収入金等に係る顧客の信用リスクは、工事毎及び取引先毎に営業担当部署が残高管理を行い、主要な取引先の信用状況及び財務状況について定期的にモニタリングしております。また、投資有価証券は主として株式であり定期的に時価や財務状況等を把握し経営者層に報告しております。

### 2. 金融商品の時価等に関する事項

2019年3月31日（当期の連結決算期）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

|                       | 連結貸借対照表<br>計上額 (※) | 時価 (※)       | 差額     |
|-----------------------|--------------------|--------------|--------|
| (1) 現金預金              | 8,274,719          | 8,274,719    | —      |
| (2) 受取手形・完成工事未収入金等    | 32,589,593         | 32,589,593   | —      |
| (3) 投資有価証券<br>その他有価証券 | 5,894,044          | 5,894,044    | —      |
| (4) 支払手形・工事未払金等       | (10,287,205)       | (10,287,205) | —      |
| (5) 未払法人税等            | (1,528,517)        | (1,528,517)  | —      |
| (6) リース債務             | (868,200)          | (853,415)    | 14,785 |

(※) 負債に計上されているものについては、( )で示しております。

#### (注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

##### (1)現金預金、(4)支払手形・工事未払金等、並びに(5)未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

##### (2)受取手形・完成工事未収入金等、並びに(6)リース債務

これらの時価は、その将来キャッシュ・フローを、回収期日までの期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

##### (3)投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

#### 2. 非上場株式（連結貸借対照表計上額9,032,372千円）は市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため「(3)投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

**(賃貸等不動産に関する注記)**

1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社は、東京都その他の地域において、賃貸用のオフィスビル（土地を含む。）等を所有しております。  
2019年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は210,783千円の利益（賃貸収益は売上高に、  
主な賃貸費用は売上原価に計上。）であります。

2. 賃貸等不動産の時価等に関する事項

| 連結貸借対照表計上額（千円） | 時価（千円）    |
|----------------|-----------|
| 3,372,489      | 6,731,111 |

（注） 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度末の時価は、主なものについては不動産鑑定士による「鑑定評価」によるものであり、その他の物件については、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づいて自社で算定した金額であります。

**(1株当たり情報に関する注記)**

1株当たり純資産額

1,958円77銭

1株当たり当期純利益

133円19銭

# 貸借対照表

(2019年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目<br>( 資 産 の 部 ) | 金 額               | 科 目<br>( 負 債 の 部 ) | 金 額               |
|--------------------|-------------------|--------------------|-------------------|
| <b>流動資産</b>        | <b>38,519,530</b> | <b>流動負債</b>        | <b>19,328,517</b> |
| 現金預金               | 6,286,823         | 支払手形               | 2,701,116         |
| 受取手形               | 197,214           | 工事未払金              | 6,801,968         |
| 完成工事未収入金           | 30,037,106        | 買掛金                | 110,093           |
| 売掛金                | 258,897           | 未払金                | 1,516,811         |
| 未成工事支出金            | 757,656           | 未払費用               | 497,281           |
| 材料貯蔵品              | 44,483            | 未払法人税等             | 1,319,529         |
| その他                | 937,347           | 未成工事受入金            | 1,987,352         |
| <b>固定資産</b>        | <b>25,069,512</b> | 完成工事補償引当金          | 2,298             |
| <b>有形固定資産</b>      | <b>17,687,712</b> | 工事損失引当金            | 113,718           |
| 建物・構築物             | 8,690,964         | 賞与引当金              | 1,405,921         |
| 機械・運搬具             | 160,402           | 役員賞与引当金            | 34,410            |
| 工具器具・備品            | 198,460           | その他                | 2,838,015         |
| 土地                 | 7,473,849         | <b>固定負債</b>        | <b>6,245,004</b>  |
| リース資産              | 1,002,589         | リース債務              | 860,544           |
| 建設仮勘定              | 161,446           | 退職給付引当金            | 4,904,765         |
| <b>無形固定資産</b>      | <b>146,140</b>    | その他                | 479,694           |
| ソフトウェア             | 133,427           | <b>負債合計</b>        | <b>25,573,521</b> |
| その他                | 12,712            | ( 純 資 産 の 部 )      |                   |
| <b>投資その他の資産</b>    | <b>7,235,659</b>  | <b>株主資本</b>        | <b>35,453,963</b> |
| 投資有価証券             | 5,033,123         | 資本金                | 1,430,962         |
| 関係会社株式             | 1,835,748         | 資本剰余金              | 3,188,408         |
| その他                | 382,293           | 資本準備金              | 649,201           |
| 貸倒引当金              | △15,505           | その他資本剰余金           | 2,539,206         |
| <b>資産合計</b>        | <b>63,589,042</b> | <b>利益剰余金</b>       | <b>31,177,610</b> |
|                    |                   | 利益準備金              | 220,240           |
|                    |                   | その他利益剰余金           | 30,957,369        |
|                    |                   | 別途積立金              | 14,500,000        |
|                    |                   | 圧縮積立金              | 849,595           |
|                    |                   | 繰越利益剰余金            | 15,607,774        |
|                    |                   | <b>自己株式</b>        | <b>△343,016</b>   |
|                    |                   | 評価・換算差額等           | 2,561,556         |
|                    |                   | その他有価証券評価差額金       | 2,561,556         |
|                    |                   | <b>純資産合計</b>       | <b>38,015,520</b> |
|                    |                   | <b>負債・純資産合計</b>    | <b>63,589,042</b> |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

招集・通知

事業報告

計算書類

監査報告

株主総会参考書類

# 損 益 計 算 書

(2018年 4 月 1 日から)  
(2019年 3 月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目               | 金 額        |            |
|-------------------|------------|------------|
| <b>売上高</b>        |            |            |
| 完成工事高             | 49,972,666 |            |
| 兼業事業売上高           | 551,858    |            |
| 不動産事業売上高          | 477,859    | 51,002,384 |
| <b>売上原価</b>       |            |            |
| 完成工事原価            | 43,027,588 |            |
| 兼業事業売上原価          | 469,995    |            |
| 不動産事業売上原価         | 267,075    | 43,764,659 |
| <b>売上総利益</b>      |            |            |
| 完成工事総利益           | 6,945,078  |            |
| 兼業事業総利益           | 81,863     |            |
| 不動産事業総利益          | 210,783    | 7,237,725  |
| <b>販売費及び一般管理費</b> |            | 3,602,869  |
| <b>営業利益</b>       |            | 3,634,855  |
| <b>営業外収益</b>      |            |            |
| 受取利息配当金           | 139,164    |            |
| 雑収入               | 85,273     | 224,438    |
| <b>営業外費用</b>      |            |            |
| 支払利息              | 46,101     |            |
| 物品売却損             | 60,509     |            |
| 雑支出               | 15,568     | 122,179    |
| <b>経常利益</b>       |            | 3,737,114  |
| <b>特別利益</b>       |            |            |
| 固定資産売却益           | 657        |            |
| 受取保険金             | 18,093     | 18,751     |
| <b>特別損失</b>       |            |            |
| 固定資産除売却損          | 37,028     |            |
| 減損損失              | 47,486     |            |
| 損害賠償金             | 7,162      | 91,677     |
| <b>税引前当期純利益</b>   |            | 3,664,189  |
| 法人税、住民税及び事業税      | 1,258,000  |            |
| 法人税等調整額           | △77,345    | 1,180,654  |
| <b>当期純利益</b>      |            | 2,483,534  |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

# 株主資本等変動計算書

(2018年 4 月 1 日から  
2019年 3 月31日まで)

(単位：千円)

| 項 目                     | 株主資本      |           |              |             |         |            |         |             |             |
|-------------------------|-----------|-----------|--------------|-------------|---------|------------|---------|-------------|-------------|
|                         | 資本金       | 資本剰余金     |              |             | 利益準備金   | 利益剰余金      |         |             |             |
|                         |           | 資本<br>準備金 | その他<br>資本剰余金 | 資本剰余金<br>合計 |         | その他利益剰余金   |         |             | 利益剰余金<br>合計 |
|                         |           |           |              |             |         | 別途積立金      | 圧縮積立金   | 繰越利益<br>剰余金 |             |
| 当期首残高                   | 1,430,962 | 649,201   | 2,539,206    | 3,188,408   | 220,240 | 13,500,000 | 832,971 | 14,593,594  | 29,146,806  |
| 当期変動額                   |           |           |              |             |         |            |         |             |             |
| 剰余金の配当                  |           |           |              |             |         |            |         | △452,730    | △452,730    |
| 当期純利益                   |           |           |              |             |         |            |         | 2,483,534   | 2,483,534   |
| 別途積立金の積立                |           |           |              |             |         | 1,000,000  |         | △1,000,000  |             |
| 圧縮積立金の積立                |           |           |              |             |         |            | 28,205  | △28,205     |             |
| 圧縮積立金の取崩                |           |           |              |             |         |            | △11,581 | 11,581      |             |
| 自己株式の取得                 |           |           |              |             |         |            |         |             |             |
| 株主資本以外の項目<br>の当期変動額（純額） |           |           |              |             |         |            |         |             |             |
| 当期変動額合計                 |           |           |              |             |         | 1,000,000  | 16,623  | 1,014,180   | 2,030,803   |
| 当期末残高                   | 1,430,962 | 649,201   | 2,539,206    | 3,188,408   | 220,240 | 14,500,000 | 849,595 | 15,607,774  | 31,177,610  |

| 項 目                     | 株主資本     |            | 評価・換算<br>差額等<br>その他<br>有価証券<br>評価差額金 | 純資産<br>合計  |
|-------------------------|----------|------------|--------------------------------------|------------|
|                         | 自己株式     | 株主資本<br>合計 |                                      |            |
| 当期首残高                   | △342,752 | 33,423,424 | 2,504,090                            | 35,927,514 |
| 当期変動額                   |          |            |                                      |            |
| 剰余金の配当                  |          | △452,730   |                                      | △452,730   |
| 当期純利益                   |          | 2,483,534  |                                      | 2,483,534  |
| 別途積立金の積立                |          |            |                                      |            |
| 圧縮積立金の積立                |          |            |                                      |            |
| 圧縮積立金の取崩                |          |            |                                      |            |
| 自己株式の取得                 | △264     | △264       |                                      | △264       |
| 株主資本以外の項目<br>の当期変動額（純額） |          |            | 57,466                               | 57,466     |
| 当期変動額合計                 | △264     | 2,030,539  | 57,466                               | 2,088,005  |
| 当期末残高                   | △343,016 | 35,453,963 | 2,561,556                            | 38,015,520 |

（注）記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

招集  
と  
通知

事業  
報告

計算  
書類

監査  
報告

株主  
総会  
参考  
書類

# 個 別 注 記 表

## (重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
  - 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法
  - その他有価証券
    - 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）
    - 時価のないもの 移動平均法による原価法
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法
  - 未成工事支出金 個別法による原価法
  - 材料貯蔵品 移動平均法による原価法（貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
3. 固定資産の減価償却方法
  - 有形固定資産  
（リース資産を除く） 定率法、ただし1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く。）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。
  - 無形固定資産 定額法  
また、自社利用のソフトウェアは、社内における利用可能期間5年に基づく定額法によっております。
  - リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。
4. 引当金の計上基準
  - 貸倒引当金 金銭債権の取立不能による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
  - 完成工事補償引当金 完成工事にかかる責任補修費用の支出に備えるため設定しており、完成工事高に対する将来の見積補償額に基づいて計上しております。
  - 工事損失引当金 受注工事の損失に備えるため、工事損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積もることができる工事について、その損失見積額を計上することとしております。
  - 賞与引当金 従業員に支給する賞与に備えるため、当期に対応する支給見込額を計上しております。
  - 役員賞与引当金 役員に支給する賞与に備えるため、当期に対応する支給見込額を計上しております。
  - 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。  
過去勤務費用については、発生時に一括費用処理することとしております。  
数理計算上の差異については、発生時の翌期に一括費用処理しております。  
なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

- |                   |                                                                                       |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 5. 完成工事高の計上基準     | 当期末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積は原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。 |
| 6. 退職給付に係る会計処理の方法 | 退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。                               |
| 7. 消費税等の経理方式      | 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。<br>ただし、資産に係る控除対象外消費税等は、発生した事業年度の期間費用としております。                 |

**(表示方法の変更)**

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)に伴う「会社法施行規則及び会社計算規則の一部を改正する省令」(平成30年法務省令第5号 平成30年3月26日)による改正後の会社計算規則に基づき、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

**(貸借対照表に関する注記)**

|                    |              |
|--------------------|--------------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額  | 6,756,627千円  |
| 2. 保証債務            |              |
| 従業員の住宅資金借入に対する債務保証 | 4,259千円      |
| 3. 関係会社に対する金銭債権・債務 |              |
| 金銭債権               | 22,838,819千円 |
| 金銭債務               | 847,389千円    |
| 4. 債権流動化による売掛債権譲渡高 |              |
| 完成工事未収入金           | 4,742,107千円  |

**(損益計算書に関する注記)**

|              |              |
|--------------|--------------|
| 1. 関係会社との取引高 |              |
| 売上高          | 30,715,492千円 |
| 仕入高          | 3,645,853千円  |
| 営業取引以外の取引    | 178,208千円    |

**(株主資本等変動計算書に関する注記)**

自己株式の種類及び株式数に関する事項

|         | 当事業年度期首の<br>株式数 (株) | 当事業年度増加<br>株式数 (株) | 当事業年度減少<br>株式数 (株) | 当事業年度末の<br>株式数 (株) |
|---------|---------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 自 己 株 式 |                     |                    |                    |                    |
| 普 通 株 式 | 466,025             | 173                | －                  | 466,198            |
| 合 計     | 466,025             | 173                | －                  | 466,198            |

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加173株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

**(税効果会計に関する注記)**

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：千円)

|                   |            |
|-------------------|------------|
| 繰延税金資産            |            |
| 賞与引当金             | 430,211    |
| 未払事業税             | 74,671     |
| 賞与社会保険料           | 61,819     |
| 工事損失引当金           | 34,797     |
| 退職給付引当金           | 1,500,858  |
| 土地評価損             | 302,945    |
| 減損損失              | 25,347     |
| その他               | 70,640     |
| 繰延税金資産計           | 2,501,292  |
| 評価性引当額            | △362,027   |
| 繰延税金資産合計          | 2,139,265  |
| 繰延税金負債            |            |
| 土地評価益             | △339,111   |
| 投資有価証券評価益         | △121,544   |
| 圧縮積立金             | △608,423   |
| その他有価証券評価差額金      | △1,129,447 |
| その他               | △1,517     |
| 繰延税金負債合計          | △2,200,044 |
| 繰延税金資産 (△は負債) の純額 | △60,778    |

(関連当事者との取引に関する注記)

(単位：千円)

| 種 類                  | 会社等の名称                 | 議決権等の所有<br>(被所有)割合<br>(%)   | 関連当事者との<br>関係     | 取引の内容                | 取 引 金 額    | 科 目                   | 期 末 残 高    |
|----------------------|------------------------|-----------------------------|-------------------|----------------------|------------|-----------------------|------------|
| その 他<br>の 関 係<br>会 社 | 東日本旅客鉄道<br>株式会社        | 所有 0.0<br>直接 被所有<br>直接 17.2 | 電気設備工事<br>の施工     | 電気工事の<br>請負          | 30,651,852 | 完成工事未<br>収入金          | 22,818,790 |
| その他の<br>関係会社<br>の子会社 | ジェイアール東日本<br>インテラス株式会社 | 所有 なし<br>直接 被所有<br>直接 なし    | 電気設備工事用<br>車両のリース | 軌陸車等の<br>リース料の<br>支払 | 259,602    | リース債務<br>(1年内を<br>含む) | 1,119,718  |

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれております。  
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等  
一般取引と同様であります。

(1株当たり情報に関する注記)

1株当たり純資産額 1,511円46銭  
1株当たり当期純利益 98円74銭

招集  
と  
通  
知

事業  
報告

計算  
書類

監査  
報告

株主  
総会  
参考  
書類

# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2019 年 5 月 8 日

日本リーテック株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 田 島 祥 朗 ⑩  
指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 斉 藤 直 樹 ⑩

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、日本リーテック株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

#### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本リーテック株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

独立監査人の監査報告書

2019 年 5 月 8 日

日本リーテック株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 田 島 祥 朗 ㊞  
業 務 執 行 社 員  
指定有限責任社員 公認会計士 斉 藤 直 樹 ㊞  
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、日本リーテック株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第10期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以 上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、2018年4月1日から2019年3月31日までの日本リーテック株式会社第10期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1)日本リーテック株式会社の監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2)各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、監査部その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
  - ①取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本店及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
  - ②事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
  - ③会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人 有限責任あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査の結果

会計監査人 有限責任あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2019年5月9日

日本リーテック株式会社 監査役会

常勤監査役 平井 憲司 ㊞

監査役 遠藤 茂樹 ㊞  
(社外監査役)

監査役 大野 雅人 ㊞  
(社外監査役)

以上

## 株主総会参考書類

### 第1号議案 剰余金処分の件

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付けており、経営体質の強化ならびに将来の事業展開に備えるための内部留保を確保しつつ、配当性向にも配慮しながら安定的な配当を継続していくことを基本方針といたしております。

つきましては、期末配当を含む剰余金の処分を以下のとおりといたしたいと存じます。

#### 1. 期末配当に関する事項

##### ① 配当財産の種類

金銭といたします。

##### ② 配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当期の期末配当金につきましては、当期の業績や財政状態、今後の事業展開等を総合的に勘案いたしまして、当初予定しておりました普通配当を18円から2円増配して20円とし、合併10年の節目による記念配当2円を加えて、当社普通株式1株につき22円といたしたいと存じます。

なお、この場合の配当総額は553,333,418円となります。

##### ③ 剰余金の配当が効力を生じる日

2019年6月27日といたしたいと存じます。

#### 2. その他の剰余金の処分に関する事項

##### ① 減少する剰余金の項目とその額

繰越利益剰余金 1,000,000,000円

##### ② 増加する剰余金の項目とその額

別途積立金 1,000,000,000円

## 第2号議案 取締役6名選任の件

本総会終結の時をもって、取締役全員（7名）が任期満了となります。2018年6月27日開催の第9期定時株主総会におきましては、取締役7名を選任いただきましたが、取締役会の意思決定をより一層迅速かつ的確に行えるよう、改めて取締役6名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号 | 氏 名     | 現在の当社における地位・担当                 | 候補者属性       |
|-------|---------|--------------------------------|-------------|
| 1     | 田 邊 昭 治 | 代表取締役社長                        | 再 任         |
| 2     | 大 森 郁 雄 | 常務取締役経営企画部長・総務部長<br>コンプライアンス担当 | 再 任         |
| 3     | 澤 村 正 彰 | 取締役財務部長<br>監査部・人事部・資材部担当       | 再 任         |
| 4     | 北 原 雄 二 | 社外取締役                          | 再 任 社 外 独 立 |
| 5     | 佐久間 一   | 社外取締役                          | 再 任 社 外 独 立 |
| 6     | 土 澤 壇   | 社外取締役                          | 新 任 社 外     |



所有する当社株式の数  
30,900株  
-----  
取締役在任年数  
7年  
-----  
当期における  
取締役会への出席状況  
14/14回 (100%)

## 1 | <sup>た な べ し ょ う じ</sup> 田邊 昭治 (1954年1月26日生)

再任

### 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況

|          |                |          |                         |
|----------|----------------|----------|-------------------------|
| 1978年 4月 | 日本国有鉄道 入社      | 2012年 6月 | 東日本電気エンジニアリング株式会社 社外監査役 |
| 1987年 4月 | 東日本旅客鉄道株式会社 入社 | 2012年 6月 | 当社 代表取締役専務鉄道本部長、安全推進部担当 |
| 2002年 6月 | 同社 東京支社電気部長    | 2012年 6月 | 大同信号株式会社 社外監査役          |
| 2005年 6月 | 同社 東京電気工事事務所長  | 2013年 6月 | 株式会社TCパワライン 社外取締役       |
| 2009年 6月 | 同社 執行役員大宮支社長   | 2013年 6月 | 当社 代表取締役社長 (現任)         |
| 2012年 6月 | 当社 入社          |          |                         |
| 2012年 6月 | 当社 顧問          |          |                         |

### 取締役候補者とした理由

同氏は、鉄道に関する技術、安全等に対する豊富な知識・経験を有するとともに、当社の業務全般を熟知しております。また、2012年から代表取締役専務、2013年から代表取締役社長を務め、当社の企業価値向上に貢献しており、取締役会の意思決定機能や監督機能の実効性強化が期待できるため、引き続き取締役候補者いたしました。



所有する当社株式の数  
1,000株  
-----  
取締役在任年数  
2年  
-----  
当期における  
取締役会への出席状況  
14/14回 (100%)

## 2 | <sup>お お も り い く お</sup> 大森 郁雄 (1958年2月13日生)

再任

### 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況

|          |                   |          |                                     |
|----------|-------------------|----------|-------------------------------------|
| 1980年 4月 | 日本国有鉄道 入社         | 2017年 6月 | 当社 取締役総務部長、監査部・コンプライアンス担当           |
| 1987年 4月 | 東日本旅客鉄道株式会社 入社    | 2018年 3月 | 当社 入社                               |
| 2012年11月 | 同社 東京支社監査室長       | 2018年 6月 | 当社 常務取締役経営企画部長、総務部長、コンプライアンス担当 (現任) |
| 2015年 7月 | 当社へ出向             | 2018年 6月 | 東日本電気エンジニアリング株式会社 社外取締役 (現任)        |
| 2015年 7月 | 当社 経営管理本部総務部長     |          |                                     |
| 2016年 7月 | 当社 執行役員総務部長、監査部担当 |          |                                     |

### 取締役候補者とした理由

同氏は、前職及び当社において総務部門、監査部門といった経営管理の要職に就いており、豊富な知識・経験と、鉄道に関する幅広い見識を有しております。また、2016年からは執行役員、2017年からは取締役、2018年からは常務取締役として、当社の業務執行及び企業価値向上に貢献しており、実績や人格、能力等を勘案し、引き続き取締役候補者いたしました。



所有する当社株式の数  
1,200株

取締役在任年数  
2年

当期における  
取締役会への出席状況  
14/14回 (100%)

### 3 | 澤村 正彰 (1963年9月21日生)

再任

#### 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況

1986年 4月 株式会社富士銀行 入行  
2002年 4月 株式会社みずほコーポレート銀行 業務企画部参事役  
2010年 4月 みずほ情報総研株式会社 執行役員 人事部長  
2014年 7月 当社へ出向  
2014年 7月 当社 経営企画本部副本部長  
2015年 6月 当社 入社

2015年 6月 当社 執行役員鉄道本部中央支店副支店長  
2016年 7月 当社 執行役員財務部長、人事部担当  
2017年 6月 当社 取締役財務部長、人事部担当  
2018年 6月 当社 取締役財務部長、監査部・人事部・資材部担当 (現任)

#### 取締役候補者とした理由

同氏は、前職及び当社において財務部門、人事部門、経営企画部門といった経営管理の要職に就いており、豊富な知識・経験を有しております。また、2015年からは執行役員、2017年からは取締役として、当社の業務執行及び企業価値向上に貢献しており、実績や人格、能力等を勘案し、引き続き取締役候補者といたしました。



所有する当社株式の数  
一株

社外取締役在任年数  
3年

当期における  
取締役会への出席状況  
14/14回 (100%)

### 4 | 北原 雄二 (1953年10月4日生)

再任

社外

独立

#### 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況

1978年 4月 検事任官  
1985年 4月 弁護士登録  
1990年 3月 栄和法律事務所開設 (現任)  
2010年 6月 当社 社外監査役  
2016年 6月 当社 社外取締役 (現任)

#### 社外取締役候補者とした理由

同氏は、過去に社外役員となること以外の方法で、会社の経営に関与された経験はありませんが、弁護士として企業法務をはじめとした豊富な知識・経験等を有しており、当社の社外監査役経験者として監査経験も豊富であることから、取締役会の意思決定機能や監督機能の実効性強化が期待できるため、引き続き社外取締役候補者となりました。



所有する当社株式の数  
一株

社外取締役在任年数  
1年

当期における  
取締役会への出席状況  
10/10回 (100%)

## 5 | さくま はじめ 佐久間 一 (1948年7月4日生)

再任

社外

独立

### 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況

1971年 7月 株式会社富士銀行 入行  
1998年 6月 同行 取締役本店公務部長  
2002年 4月 株式会社みずほ銀行 監査役  
2003年 3月 東京建物株式会社 常務取締役  
2006年 3月 同社 代表取締役専務取締役  
2010年 3月 同社 代表取締役副社長  
2012年 2月 同社 代表取締役社長

2017年 1月 同社 取締役取締役会議長  
2018年 6月 当社 社外取締役 (現任)  
2019年 3月 東京建物株式会社 特別顧問 (現任)

### 社外取締役候補者とした理由

同氏は、上場会社役員としてこれまで培われた豊富な経験と幅広い見識を有しており、社外の客観的・専門的な視野による的確な助言や指導をもって、当社の経営を監督し、ガバナンス体制強化への貢献が期待できることから、引き続き社外取締役候補者いたしました。



所有する当社株式の数  
一株

社外取締役在任年数  
一年

当期における  
取締役会への出席状況  
— / — 回 (— %)

## 6 | つち ざわ だん 土澤 壇 (1969年9月18日生)

新任

社外

### 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況

1992年 4月 東日本旅客鉄道株式会社 入社  
2005年12月 同社 盛岡支社設備部電力課長  
2011年11月 同社 東京支社電気部企画課長  
2013年 3月 同社 横浜支社総務部長  
2016年 6月 同社 鉄道事業本部電気ネットワーク部次長  
2019年 4月 同社 新幹線統括本部新幹線電気ネットワーク部長 (現任)

### 社外取締役候補者とした理由

同氏は、過去に社外役員となること以外の方法で、会社の経営に関与した経験はありませんが、鉄道に関する技術、安全等に対する豊富な知識・経験を有しており、社外の客観的・専門的な視野から、当社の経営への的確な助言と業務執行に対する適切な監督を期待できることから、社外取締役候補者いたしました。なお、同氏は、主要な取引先である東日本旅客鉄道株式会社の新幹線統括本部新幹線電気ネットワーク部長 (業務執行者) であり、同社から給与等の支払いを受けております。

- (注) 1. 各取締役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 北原雄二氏、佐久間一氏、土澤壇氏は社外取締役候補者であります。
3. 当社と北原雄二氏及び佐久間一氏の間では、現在、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、同法第425条第1項が定める額としております。なお、北原雄二氏及び佐久間一氏が原案どおり選任された場合、現在締結中の責任限定契約を改めて締結する予定であります。また、土澤壇氏につきましても、原案どおり選任された場合には、同様の責任限定契約を締結する予定であります。
4. 当社は、北原雄二氏、佐久間一氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。両氏が原案どおり選任された場合には、引き続き独立役員とする予定であります。

以 上

会 場 東京都千代田区神田須田町一丁目25番  
J R 神田万世橋ビル4 階 ステーションコンファレンス万世橋（電話 03-6859-8200）